

牧区の秋

ひたちなか市

高橋武三郎（福岡出身）

去る秋晴れの十月二十八日、二十九日の二日間、秋の交流会に妻と二人で参加させて頂きました。

当日は、早朝四時に車で家を出て磐越道経由で直江津に向かい実家で一休みしてから集合場所の直江津駅に行ったら駐車場が満車であり、急遽実家まで戻り駅まで送ってもらい集合時間に間に合った。

最初にそば祭り会場に案内されたが、あいにくと途中でそばを食べてきたばかりなので、旨そうなそばであったが見るだけにしておいた。引き続いて牧区内の観光へと移ったが、牧区内の案内人として乗車して来られた成島継紀氏の牧への思い、郷土への愛情、そして郷土史の造詣の深さ、はたまたそのウィットに富んだ話術にただただ感心させられて、聞き惚れてうなずくばかりの一時でありました。

しく感じる旅でもありました。残念であったのは時間の関係で牧歴史民俗資料館を見られなかった。

バスはさらに山中へと進みミニイロハ坂と言われる牧峠へと向かい、途中から見える高田平野のなんと美しい事が、またブナ林の美しさ、山間に点々と見える集落、まるで一幅の絵を見ている様であった。

今宵一夜の宿となる深山荘での食事の旨かったこと。盛りだくさんの見事な山菜、思わず皿皿もお代わりをしてしまいました。そして地元の方の優雅な舞を見ながらの牧ならではのドブロクと地酒を飲みながらのカラオケあるいは会話と楽しい食事であった。

翌日は原地区の明願寺見学、このお寺を基地として日本で最初の有線放送が始められていたとは、これもまた始めて知ったことであった。昔懐かしいラジオや写真、そして蔵書の数々、このままにしておくと勿体無い、なんとか観光資源にならない物だろうかと思っても見たがいかがであらうか。

ソバ打ち体験も楽しい思い出でした。なかなか滑らかに捏ねあがらず、切れば

うどんの様に太い無様なソバになってしまったが食してみればなんといいえない味であった。



今回の交流会は私に取ってみれば、まさに「歴史発見」の旅でありました。同行した茨城生まれ茨城育ちの妻も大変満足し、次回もぜひ参加しようと今から意気込んでいます。野菜と一キログラム入り米十二袋、ドブロク一本をお土産に直江津駅に到着、その日の夕方は小学校のクラス会が越後湯沢にて開かれ参加のため車で移動しました。

今回は二つの旅が重なり、とても有意義な旅と成りました。来年は高田の桜を見たいなあと思っています。

最後に、お世話くださいました皆様方に感謝の心をこめて詩を献上致します。

シベリア引揚者の読める「ふるさと」

ふるさとの山はなつかし
ふるさとの川はなつかし
疲れたる心抱きて
足重く帰り来たれば
ふるさとに山はありけり
ふるさとに川はありけり
ふるさとに父はなつかし
たらちねの母はなつかし
幼児の心になりて
身も堅く門をくぐれば
すこやかに父はましけり
なごやかに母はましけり
ふるさとの友はなつかし
ふるさとの土はなつかし
こみあぐる涙のみのみ
友の手をしかと握れば
あたたかく友はありけり
やわらかく土はありけり



眺望を楽しむ



お部屋での2次会



カラオケ風景



日本初の有線放送の説明



日本最初の有線放送の機具



粉をこねて、



説明を聞き、



のばして、



こねて



のばして、



のばして、



お腹に入れました。



切って、

切って、